病んだ世界～BLEACH編～

レイ@FSG

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

山本総隊長の命令でいきなり三番隊隊長をやる事になった主人公

？井奈　零

彼は、ちゃんとした隊長になる為に数々の試練を突破しなければならない！果たして主人公は、試練をクリアしちゃんとした隊長になれるのか。

～これは長編物です。～

目　次

病んだ心　卯ノ花隊長と勇音副隊長
～試練その一　～（誤字直し）――　1
病んだ心???　～試練その一　～
6
病んだ心?虎徹勇音　～特別　海編～
9
零の事が好きな女性達は何処まで零の事
を知っているのか?その一　――――　13
復帰記念　注意?ヤンデレ要素無いです
尸魂界魂魄消滅事件～第一話～
16

病んだ心　卯ノ花隊長と勇音副隊長　～試練その一～（誤字直し）

よう、零だ！突然だが、今俺は全力で走っている。何故かって？

？「どうして逃げるんですか？レイクン。」

零「逃げるに決まっているだろ！（しかも目のハイライト何処かにお出かけしているし……。）」

？「そうですか？至って目は正常ですが？」

零「ちょっと待って！なぜ、俺の考えてた事分かってんだよ！」

？「愛しのレイくんの考えてる事なんて全部分かりますよ。」

おっと…。？の名前が分からないって読者もいるよな。今、主人公の零を凄いスピードで追いかけている女性は、護廷十三隊の元十一番隊隊長にして現四番隊隊長の卯ノ花烈（八千流）さんだ。

今、追いかけられている経緯だが……

～三番隊舎にて～

零「はぁー。仕事量相変わらず多いな……。正直めんどくせぇ！」

そう言いながら、机の上にある隊に関係のある資料を片付けていた。

零「（元はと言えばいきなりギン隊長が隊を裏切るから三番隊は混乱して次の隊長は、副隊長かと思ったら現副隊長の吉良イヅルさんは卍解が出来ないって理由でなれないしそして白羽の矢が立ったのが三番隊で唯一卍解が使える俺だし！しかも！聞いた話だと現四番隊隊長の卯ノ花さんが三番隊の零を隊長したらどうでしょうか零は卍解も使えるますし。とか言うし！てかなんで俺が卍解使えるの知っているし！誰にも卍解を見せた事がないのに！）」

そう思っていたら。

？「お邪魔しますね。」

そう言いながら一人入ってきた。

零「一人で来るなんて珍しいですね？虎徹勇音副隊長殿」

勇「やめてくださいよ。今は、貴方の方が上なんですよ。それと、余りそんな改まった様な言い方なんてしないでください。」

零「ごめん…。隊員時代の癖が抜けないんだよね。」

勇「そうなんですか。」

零「そう言えばなんか俺に用があるんだよね？」

勇「そうでした！危ない忘れるところでした！用と言うのは、私と付き合ってくださ

い！」

零「え？ちょっと待って！俺を好きになった理由が欲しいんだが？」

勇「え？理由なんて無いですよ。ただ零隊長が好きになったからですよ。」

零「（理由が無いか……！待ってよく勇音の目を見て見たらハイライトがない！やばいぞ！ここでＹＥＳって言ったら必ず駄目人間になるパターンのやつだ！かと言ってＮＯと言ったら監禁されて洗脳されるパターンのやつだ！なんか手はないか？そうだ！こうなったらやる事は、二つあるがその内の一つにしよう。）」

勇「フフ…。私と結婚する決断は出来たかしら？」

零「なんか、用件がグレードアップしているし……。あ！そんな事より勇音のうしろに卯ノ花隊長が……って、えぇぇ！」

嘘だろ……！なんと卯ノ花隊長のがうしろにいるよーって言って、焦っている所を逃げよと思ったら本当にうしろにいてびっくりしたんだが！

烈「なんですか？そんなに驚いてもしかして居ちゃ駄目ですか？」

零「いや、駄目ではないが…」

勇「なんでここに卯ノ花隊長がいるの？そうか…私と零隊長の仲を邪魔しに来たのね。」

烈「あら？どうして？貴方達の仲なんて邪魔しに来るわけないじゃない。」

零「じゃあ何しに…」

烈「簡単よ私と勇音で零君を監禁すればいいのよ。もちろん勇音にもメリットがあるわ。もし勇音一人で零君の事を監禁しているのじゃあ多分見つかるリスクが大きいでもここで私も共犯で零君を監禁していたら？勇音貴女は、隊長と副隊長がこんな事共犯でしていると思う？」

勇「全然思わないわ…。」

零「やばいかも……」シュッ←瞬歩で逃げる

零「ふー危ない危ないあのままいたら多分監禁ＥＮＤに辿る所やった。」

烈「フフ…見つけましたよ。」

零「やば！」シュッ

烈「逃がしませんよ」シュッ

～過去の回想終わり～

と言う事があって今第一回尸魂界内瞬歩リアル鬼ごっこしているのだ。

俺は、こんな事やりたくないよ。まあ逃げないと監禁ＥＮＤになるから逃げてるんだけど。

烈「そろそろリタイヤしたらどうですか？」

零「嫌です！」

烈「そうですか…。しかたないですね…。」
そう言った途端いきなり卯ノ花隊長のスピードが早くなった！
零「やばい」
こっちもそう思い今より早いスピードを出した。
零「（あれ？そう言えばさっきからずっと思っていたんだが勇音さんがいない？）」
そう思っていたら耳元から突然
勇「ツカマエタ」
俺は声がした方向を振り向いた。
↑Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ？

病んだ心???　～試練その一　～

今、俺は零番隊に所属する。とある人に会うために　こ→こ←　に来た。

零「んー？此処かな？多分あっている…と思いたい。まあ、入って見るか間違えてたら間違えましたー。って言えば大丈夫やろ、多分……。」

？「何が大丈夫なんじゃ？」

不意にうしろから声をかけられた。

零「うあああー！」

？「なんじゃ？いきなり大きな声出して。妾に用があるんじゃろ？用件奥で聞こう着いてくるといい。」

レ「おっと、そろそろ???の名前を明かさないとな。さすがに？は駄目やろ（笑）はいっと言う訳で今回のキャラは、零番隊　北方神将　大織守（おおもりがみ）の修多羅千手丸です。それでは、キャラ名紹介ここまでそれでは！引き続き物語を楽しみ下さい！」

～千手丸の離殿奥にて～

千「さて、妾に用件ってなんじゃ？」

零「千手丸さんにとっては、大した事ではないですが……。前回のお礼がしたくてここに来ました。」

千「あぁ、そんな事か…。そなたを助けたのは、妾の気まぐれじゃ　だからあまり気にするでない。そんな事よりそなたは、尸魂界を守る護廷十三隊の三番隊隊長では、ないか？こんな所で油売ってるよりも隊長としての職務を真っ当してほしいんじゃが？」

零「そうですね……。じゃあ、私は、そろそろおいとましますね……。ありがとうございます。こんな事に、時間を取っていただき。」

お礼の言葉をいい千手丸の離殿をあとにした。

～～千手丸ｓｉｄｅ～～

妾が「零」そなたを助けたのは、そなた……いいや零が好きだからじゃ

好きになったのは、零番隊の時ではなく護廷十三隊の隊長をつとめていた時じゃ。その時、妾はとある任務に着いていた。その頃の妾は、隊長の中でも能力が特異的であることそれ以外でも、妾の喋り方や性格が相まって妾は、隊の中でも一人であることが多かった。でも、そんな空気を壊したのが現三番隊隊長であり前の妾の隊の副隊長であった。零じゃ

隊員の誰もが妾の事を避ける中零だけはよく妾に話しかけてくれたのじゃ。

他の人から見れば「普通の事」と見られるが、当時喋る友達と言うのがいなかったか

らこそ妾は、零の事が好きになっていたでも、その思いを伝えられず妾は、零番隊になったのじゃ。

それから、零番隊に入った後も変装して愛する零の様子を見ていたのじゃ。

そして、いつもの様に零の様子を見に言ったら四番隊の隊長と副隊長に追いかけられている零を見てしまった。最初は、二人とも○してやろかなと思ったが、それをやってしまうと大変な事になってしまうから二人の進路妨害だけしてやった。妨害された二人は、分からなかったが零だけは、分かっていたようじゃ。だからお礼に来たのじゃろう。

それにしても、二人がかりで妾の愛しの零を捕まえようとするヤツらがユルセン、ワラワノ愛シノレイヲ本当ニ　ニクイ……。

病んだ心?・虎徹勇音　～特別　海編～

零「はぁー、なんでこんな事に…。」
勇「まあーいいじゃないですか。」
～約３時間前～
零「あぢぃー。何だよこの暑さ～。」
仕事をしている時チラッと温度計を見てみたら約３５度あたりだった。
零「嘘だろ…。」
勇「失礼します、？井奈隊長。」
（時止め）レ「おっと今、虎徹副隊長が？井奈隊長と読んだよね？だいたいの読者が、想像しているが零の名字だよ。ちなみに、？井奈の読み方だが（きいな）と読むぞ！おっと時間を取りすぎたようだな！それでは、引き続き物語を楽しんでください！」（時止め解除）
零「ん？どうした？」
勇「いえ、この頃猛暑日が続いているので皆さんで海に行こうかなと今日女性死神協会で…。」

零「あー、なんだ…。だいたい伝えたい事が分かったよ。」
勇「え?本当ですか?まだ話しの内容半分しか言ってないのに…。」
零「つまりあれだろ、今日　女性死神協会が最近暑い日が続くから他の隊長や副隊長を現世の海に連れて行こうと言う訳だろう?」
勇「凄い…。全部当たっています。」
零「それで、俺もどうだって話しだろ?いいよ明日から暇になるし。」
勇「分かりました。」
零「ところで、現時点で誰が来る予定なんだ?」
勇「確か、女性死神協会に入っている人全員・卯ノ花隊長・朽木ルキアさん・阿散井恋次さん・朽木隊長・浮竹隊長・四楓院夜一さん・黒崎一護さん・井上織姫さん・石田雨竜さん茶渡泰虎さん……。これが、現段階来れる人達です。」
零「ん?一護たち現世組は、何時誘ったんだ?」
勇「ルキアさんに、頼みました。」
零「そうなんだ…、分かったわ…。」
勇「そうだ!この後、現世に出かけませんか?」
零「ん?別に良いけど。何故?」
勇「水着買いですよ。海に来る方も水着買いに来ますよ。」

零「そうか、分かった。」

～約3時間後三番隊舎隊長部屋にて～

零「最悪だー。まあ、確かに水着は買ったのはいいよ！良いけどさ…。選ぶのが長くなっただけじゃなくて俺もその水着選びを手伝わされたし！そのせいで余計疲れたわー。まあ、勇音が喜んでいたしいいか…。」

俺は、沈む夕日を見ながら水を飲んだ。コップを置いた時、不意に机を見たそしたらペンが置きっぱなしだった。

零「ん？忘れ物？誰のだろう？」

と、思っていたら…。扉を叩く音が聞こえた。

勇「すみません、？井奈隊長こちらにペン置いてなかったでしょうか？」

零「もしかして？これの事？」

俺は、ペンを見せた。

勇「あ！それです！ありがとうございます！それでは、失礼しました！」

零「じゃあねー。（　・ω・）〃／〃」

ちょっと眠くなったので仮眠を取る事にした。

次回に続く！

ーーーーー主人公詳細ーーーーー

名前：?井奈　零（きいな　れい）
所属：三番隊隊長
零の事が好きな人：虎徹勇音　卯ノ花烈　修多羅千手丸←現時点
零の斬魄刀：建前：まだ分からない……。（本音：まだ決めてない）
零の霊力：計測不可

零の事が好きな女性達は何処まで零の事を知っているのか？その一

レ「どうも～。こ→こ←の主レイです。今回は、この物語の主人公でもある？井奈零さんの事が好きな女性達は、何処まで零の事を知っているのかを三人の女性に聞いて行きましょう。まずは、一番登場が多い虎徹勇音さんです。」

勇「私は、？井奈隊長に惚れてから？井奈隊長の好きな食べ物やいつも何処にいるか等々？井奈隊長に関する事なら一つ以外全部知っています。まあ、分からない一つは言いませんが。私は、これくらいですかね。私もまだまだですね。」

レ「そ、そうですかまだまだにしては、十分知っている方かなと思いますが？まあ、いいでしょうこれ以上聞くと私の身が危ないので、触らぬ神に祟りなし、ですね。次は、二話で登場修多羅千手丸に聞いて見ましょう！」

千「ん？妾が、零の事をどれくらい知っているのかじゃと？バカ言うでない。妾が、護廷十三隊の隊長をしとった時の副隊長が現の三番隊隊長の零じゃぞ、しかも零の事を好きになったのもその時じゃ。この頃から零の事について色々調べたんじゃ。零の事は、全部知っておる。」

レ「ん?全部知っていると言う事は、零が持っている斬魄刀の名前や始解や卍解の名前も知っている事と捉えていいんですね?」
千「知っておるぞ。」
レ「ちなみに、零の卍解の名前はなんですか?」
千「悪いな、教えたいのはやまやまじゃが、零に口止めされていてな教えることが出来ないのじゃ。」
レ「そうですか。」
しかし千手丸さんには、済まないが信じる事が出来ず……。実際に、零隊長に聞いて見た。
〜三番隊舎の隊長部屋にて〜
レ「すみません、零隊長に用があり来ました。」
零「どうぞ〜って主じゃんいきなりどうした?」
レ「いやな、実はこんな事があってな……。」
ー主説明中ー
レ「って事があって本当?」
零「千手丸さんに、口止めしているのは本当ですよ。」
レ「分かりました。ありがとうございます。」

こうして、私は零隊長の部屋を後にした。

レ「さあ、最後は四番隊隊長卯ノ花烈さんです。」

烈「あら私が、ラストですか。零隊長について何処まで知っているのかですよね?」

レ「そうですよ。」

烈「じゃあ、知っている事を一つ以外全部教えますね。まず、零隊長がよくいる所は、零隊長の部屋です。また、好きな食べ物はないと言うか決まってないです。他にも、色々ありますが言うのは、やめておきましょう。書く人が苦労しそうなので。じゃあ最後に、零隊長の斬魄刀の名前と始解の解号を教えましょう。斬魄刀の名前は、「神界無刀」です。解号は、「無数の武器よ我が武器となりてすべての敵を蹴散らせ!」です。」

レ「ありがとうございました。ある意味怖いな卯ノ花さん……。あ、こちらからは以上です!」

復帰記念　注意?ヤンデレ要素無いです　尸魂界魂魄消滅事件～第一話～

僕は現三番隊隊長の?井奈　零（きいな　れい）だ。今、調査依頼を受けて尸魂界中を飛び回ってる

零「やっぱりおかしいな……、まるで生身だけ消えたように服だけが綺麗に並べてある…、とりあえず報告するか」

～護廷十三隊本部（名前忘れた?ｗ）～

山「零よ戻ったか、調査はどうじゃった。」

零「調査では、まるで生身だけが綺麗に消えたようなあとがありました。」

山「そうか、もう戻って良いぞ」

零「分かりました、それでは失礼します。」

零「さて、どうしたものか…。これだと、約１０年前に愛染達が起こした魂魄消失事件と似ているぞ…、また愛染が起こしているかなと思うが愛染の目撃情報はない、となると何が原因なんだ…。」

と、思いながら廊下を歩いていたらいきなり「ギャーっ」と言う声が聞こえた！

零「ッ！」

僕は悲鳴の聞こえた方向に瞬歩で向かった。

～門付近～

着いたが、なんと！謎の黒い影に隊員に切り付けていた。しかもやつの斬魄刀は切られたら消滅する能力を持ったものであった、切られた隊員が消失しており服だけがあったのだ。そして何より走るスピードや切る時の動作が速い！まるで瞬歩を常時使ってる感じだ！なら、早めに勝負を決めるか！

ーーーー裏・覇道の一　煉獄火炎ーーーー

唱えた瞬間地面から燃え上がる煉獄の炎の火柱がたった、しかしそれだけではない、その火柱は三本たち謎の黒い影が一本の火柱で中に舞いそれを逃がすまいと両端の火柱が黒い影を中心にクロス型となった。

こんな感じ↓＊

零「終わったか…。いや、まだか…。」

なんと、黒い影は火柱の中から出てきた、そして僕とやり合うのは場が悪いのか逃げようとした。

零「させるか！」

僕は、逃げようとする黒い影に切りかかった！
黒い影も気づいたのか斬魄刀を取り出し戦った！
零「お前は、誰だ？」
僕が聞こうとするも
黒「……。」
相手は、答えてくれなかった。まあ、当たり前か、敵にわざわざ名前なんざ教えないもんな。
埒が明かないと思ったので一気に決めに行くことにした！
まず、一瞬の残像を作り相手から見て左斜め下に体制を下げ残像が切れた瞬間に相手の横腹に鵜目を当てた！見事的中したまま相手の足を狙い右足で足払いをした、相手は転んだのでその隙に斬魄刀でトドメを刺そうとした瞬間！
黒「昔より甘くなったな」
いきなり喋ったことに驚きつつも
零「どう言う事だ！」
黒「そのままの意味だよ」
黒い影は笑いながら答えた
零「ッ！」

僕はそのまま斬魄刀を振りかざした……が！斬魄刀は地面に着いておりさっきまで追い詰めた黒い影が跡形もなく消えていた。

零「チッ逃がしたか…。」

今回の黒幕をあと一歩で逃してしまった。それより、黒い影が言っていた。「昔より甘くなったな」が気になるな…。

ーー次回に続くーー